

令和7年度 健康なまちづくり審議会【第1回】議事録(要点)

1 開催日時 令和7年6月18日(水)15時00分から16時00分

2 開催場所 市庁舎 GF BC 会議室

3 出席者

【会 長】	習志野市医師会 会長	三束 武司 氏
【委 員】	習志野市薬剤師会 会長	武田 未佳 氏
	千葉県済生会習志野病院 院長	小林 智 氏
	習志野健康福祉センター センター長	杉戸 一寿 氏
	習志野市袖ヶ浦東小学校 校長	瀬山 英樹 氏
	植草学園大学看護学部 准教授	岩瀬 靖子 氏
	公募委員	田中 明子 氏
	株式会社エイチアンドエス 代表取締役社長	清水 繭子 氏
	習志野市高齢者相談員	佃 和子 氏
	特定非営利活動法人習志野イースタンスポーツクラブ 理事	三輪 彌太郎氏
	母子保健推進委員の会 副会長	平山 幸子 氏
	特定非営利活動法人1to1 理事長	武井 剛 氏
	市民カレッジ20期生	楫賀 健雄 氏
【事務局】	習志野市長	宮本 泰介(日程第4諮問まで出席)
	健康福祉部 部長	奥井 良和
	次長	中村 裕美
	健康支援課 課長	板倉 尚子
	主幹	伊藤 千佳子
	主幹	仲川 陽子
	主幹	林 睦代
	主幹	篠塚 美由紀
	係長	佐々木 康太(企画・管理係)
	主査補	田中 すみれ(企画・管理係)

【傍聴者】 0名

4 日程

開会

第1 会議の公開について

第2 会議録の作成等について

第3 会議録署名委員の指名について

第4 諮問

第5 報告(1)健康なまち習志野計画総合評価について(報告)

第6 審議(1)次期健康なまち習志野計画素案について

第7 その他

閉会

5 会議資料

資料1 総合評価書

資料2 健康なまち習志野計画(素案)令和7年6月

資料3 健康なまち習志野計画(素案)の概要資料

6 議事内容

開会

出席委員は、15名のうち13名であるため、本審議會は成立した。

議事

第1 会議の公開について

本日の会議は、「習志野市審議會等の設置及び運営等に関する指針」により、原則公開となっている。内容により、公開・非公開の判断が必要となった際は、その都度諮ることについて、了承を得る。なお、本日の内容に非公開になると思われる案件はない。

第2 会議録の作成等について

会議録の作成等について諮る。会議録については、要点筆記とする。会議名、開催日時、開催場所、出席者氏名、審議事項、会議内容、発言委員名、および 所属機関・役職を記載したうえで、本市ホームページ及び市役所グラウンドフロアの情報公開コーナーにおいて公開することについて諮り、了承を得る。

第3 会議録署名委員の指名について

会議録署名委員の指名について、会長から指名することについて諮り、了承を得る。会長から武田委員を指名する。

第4 諮問

宮本市長から健支926号にて、健康なまち習志野計画(素案)について諮問する。(宮本市長から三束会長へ諮問書が手交された。)

(挨拶後、宮本市長は公務のため退席。)

第5 報告

(1)健康なまち習志野計画総合評価について

【資料1に基づき「健康なまち習志野計画総合評価」について事務局より説明】

【三束会長】

事務局からの報告について、意見、質問はあるか。

【各委員】

特になし

第6 審議

(1)次期健康なまち習志野計画素案について

【資料2に基づき「健康なまち習志野計画(素案)」について事務局より説明】

【三束会長】

事務局からの説明について、質問、意見はあるか。

【杉戸委員】

38ページ「COPD(慢性閉塞性肺疾患)を認知している割合」が2018年度の 32.8%に対し現状値 33.1%で増加しているが、アンケート等をとった結果か。

【板倉課長】

はい。令和6年度に実施した健康意識調査の結果である。

【三束会長】

15ページの令和17年の人口比率について、習志野市の年少人口が県を下回る勢いで減少している。郡部や農村部に比べ、年少人口の減少は緩やかだと思っていたが、この先の10年でどのような変化が予想されるか。

【板倉課長】

急激な減少について、確認はしていないが、おそらく開発が一通り落ち着き、若い世代の移住が減少することで、年少人口も減少すると予測している。

【三束委員】

この10年、20年、市内は造成や再開発が活発で、今後も新しいものができると聞いたため、習志野市は安定していると思っていた。割合であるので高齢者人口が増加するということもあると思う。

【武井委員】

2点質問がある。

1点目、32ページの在宅の要支援・要介護認定者の「介護・介助が必要になった原因」で「その他」が多くなっているが、具体的にはどういったことか。

2点目、38ページ「生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合」のところで、「1日平均純アルコール摂取量: 男性40g 以上、女性20g 以上」とあり、男女で差がある

が根拠はあるか。

【板倉課長】

1点目「介護・介助が必要になった原因」の「その他」の内容は確認し、後日、回答する。

2点目「1日平均純アルコール摂取量」は国の健康日本21(第三次)のなかで決められている値である。

【三束委員】

30ページの国民健康保険の一人当たりの年間医療費が毎年約1万円ずつ増加している。国の医療費は横ばい、あるいは抑制しようとしている状況だが、今後5年、10年で高齢人口比率がさらに増加すると、この1、2年の医療材料費の高騰も相まって、市民への良質な医療提供が困難になる可能性がある。多くの医療機関が経営に苦慮しており、自助努力だけではどうにもならない状況になっている。市からの援助の増加も期待できない。市民のために税金の使い道について再考が必要だと感じる。

【小林委員】

30ページの国民健康保険の一人当たりの年間医療費について、令和2年度までは習志野市が千葉県より高かったが、それ以降は県平均を下回っている。この変化の理由、あるいは施策による影響があるのか伺いたい。

39ページにある「学校給食に地場産物を使用する割合」が低いことについて、地場産物の使用が望ましい食習慣の形成や食育推進にどうつながるのか、その関連性について聞きたい。

32ページの在宅の要支援・要介護認定者の「介護・介助が必要になった原因」について、原因を一つに特定するのは難しいケースもあると思う。これは本人へのアンケートによるものなのか、あるいは第三者による判断なのか。

【板倉課長】

30ページの国民健康保険医療費が令和3年度から県を下回っている理由については、担当課に確認し後ほど回答する。

32ページの在宅の要支援・要介護認定者の「介護・介助が必要になった原因」について、本人アンケートか第三者判断かの点も合わせて確認する。

【仲川主幹】

食育推進計画は、国の基本計画と県の計画両方で食育推進の目標として「学校給食における地場産物使用割合の増加」が掲げられている。習志野市でも学校、保育所、幼稚園の目標としている。

【小林委員】

地場産物の使用理由について、例えば、新鮮さや食への興味喚起などが挙げられるのか。少々違和感がある。

【仲川主幹】

食育推進計画には、栄養改善だけでなく、食育推進ボランティアの数を増やすことや農林

漁業体験を経験した国民の数を増やすというような食育の視点での目標が含まれている。学校給食における地場産物の使用は、地産地消の推進という観点から含まれているものとする。

【小林委員】

地場産物とは、千葉県内で採れたものという意味か。

【仲川主幹】

そうである。

【三束会長】

他に質問、意見はあるか。

(質疑なし)

質疑なしとする。

第7 その他(事務局連絡等)

【板倉課長】

今後のスケジュールについて説明する。次回の健康なまちづくり審議会は9月を予定している。日程を決定したら連絡する。前回の審議会で、今年度4回の審議会を開催予定と伝えたが、3回の開催に変更する。9月頃、3月頃の予定である。

次回9月は、健康なまち習志野計画の第5章までの素案に関する審議を予定している。

その後、答申をいただいた上で、パブリックコメントを実施する。

第3回目の審議会では、次期計画の最終案の報告を予定している。

また、委員の皆様の任期は、今年の10月31日までとなっていることから、次期の委嘱に向けて各所属への推薦依頼をする。公募委員については、8月1日から広報習志野及びホームページで募集する予定である。

【三束会長】

これをもって、令和7年度第1回習志野市健康なまちづくり審議会を閉会する。

閉会

7 所管課名

健康福祉部 健康支援課

電話：047-451-1151（内線 316）